

Education Workers and Amalgamated Union Osaka

Vol. 7 2007・6

NATURAL VOICE



にほんごの仕事と時間

新学期の授業スタートから早 2 カ月。新入生も生活によりやく落ち着きが見られてきました。しかし、目前には校内必須検定、留学生試験、クラス別の中間試験と続きます。すでに夏日の続く日々。張り切っていた新学期スタート期に比べるとそろそろ疲れがみえてくる頃ですね。学生たちも講師の私たちも、ここでちょっと一息ついて、ペース調整したいところ。中間試験前で、じっくり考える時間ありませんが、今後の授業を円滑に進めるためにも、ひとときを割いて、今後の指導方法と授業の方向を見通したいものです。

今回は、講師の方々に組合支部より、お願いがあります。『日本語教師のシゴトと時間』について記録して、その中身をいっしょに考えてみませんか。私たちのような教育関係の仕事は区切りがなかなか付けにくいものですが、大きく生活時間全体の中でこの『にほんごを教えるしごと』を見直してはと考えています。授業計画、授業準備、実施後の処理……。限られた時間をやりくりして、どう目的にあった授業をするか。キャリアの長短を問わず、難しいものです。最近、ドキリとする言葉を目にしました。『時間の使い方は命の使い方』 むだには使ってないけど、なんや、せわしないなあ～みなさんはいかがですか？

(エール学園支部 * 新美益子)

***** にほんごを教えるために 必要な時間を記録してみる *****

(仕事の内容を項目に)

【 A 授業に直接関わるもの 】

授業準備 (資料収集・下調べ・教案・学習教材作成・印刷) ・授業実施

授業後の処理 (採点・活動記録・改善案メモ)

学生への質問対応・交流

クラス担当講師との打ち合わせ・連絡 (進行チェック・引継ぎ・意見交換・メール・メモ)

【 B 授業を間接的に支えるもの 】

研究・解説書・参考書を読む・学術情報の購読

研修会・学会・研究会への参加・日本語教師との学習・研究交流

職場の日本語教師との研鑽・意見交換・指導・授業見学

新しい教科書の研究・参考

T V ・新聞・社会活動からの情報収集

【 個人かグループか？ 分担か専任か？ 急ぐ仕事か、じっくり取り組む仕事か？ 慣れた仕事か、新規か？ 】

昨年より、専任、メンター、一般非常勤講師の役割や分担体制が変わる中で、授業計画や印刷作業などの分担や流れが変わってきました。講師個人の自律的な活動領域が広がり、自由度が増した一方で、新しく受け持つ分野や、はじめて経験する授業科目もあり、とまどったり、苦勞されていることもあるかと思えます。教育目標としては、いろんな可能性を追求して、新しい分野を切り開きたいですね。しかし、それらに伴い、どのような変化がみられたか、円滑に進んでいるか、点検も必要な時期となってきました。

組合支部は、これまで学園と交渉し、主に専任やメンターにかかる負担を軽減するよう【業務改善】の方針を引き出しました。また、所定の労働時間（専任、メンター、非常勤講師とも9時～6時までの職場での勤務）を守ることを相互に確認しました。現在、その時間内で授業管理、講師連絡、カリキュラム計画作成などの実務がこなせることを目標に活動しています。しかし、実現はなかなか困難です。すでに超過気味の現象が見られます。また自宅への持ち帰りにより、こなしている業務も増えてきました。

そこで、みなさんに呼びかけて、働き方の実態を客観的につかんでみることにしました。その実態に基づいて、それぞれで自分の仕事の割り振りや内容の軽減について気づくことがあれば、クラス・チームやレベルで具体的に問題にしてはどうかと思います。講師の皆さんといまのレベル単位、クラス単位のチームワークを生かしながら、全体として労働時間の軽減と仕事の流れの円滑化が実現できたらと望んでいます。

同時に、専任や学年主任、メンターは業務としても、そうした働く時間に影響する業務の割り振りを調整する責任を負っていますから、積極的に提案していただけたらと思います。

おいそがしい時期に大変ご面倒な作業とはなりますが、ぜひご協力お願いします。

【今年度の契約交渉】

団体交渉

- 5月15日(火)午後4 - 6時 就任承諾書 交渉 学園側案 提示・修正論議
6月12日(火)午後3時半～予定 就任承諾書 交渉 組合側再修正案 最終確認交渉

支部会 Branch Meeting

- 1 4月19日(木) 5:00 - 6:30 団交経過報告・年間活動計画・前期の重点目標
- 2 5月17日(木) 5:00 - 7:00 団体交渉内容検討 就業時間について・ニュース企画・総会予告
- 3 6月28日(木) 5:00 - 7:00 就業時間・時間記録活動について・日本語教育情報・総会報告

職場の現状 & 学園との交渉

前号に引き続き、主に「就任承諾書」の交渉内容をお伝えします。講師の方々の中にはすでに個人契約をすませていらっしゃる方もおられると思いますが、この交渉終了後、契約内容を示しますので、ぜひご参照ください。わたしたちは交渉の成果がみなさんの就労条件にもよりよい形で反映されるよう努力しています。尚、6月末には後期の入学希望予定者の入管申請も終了します。今後もメンター・専任を要として、講師の皆さんが働きやすい環境となるよう、組合は後期の体制準備へと方針を立てていきます。ご要望があれば、声をお寄せください。

【学園回答後の現状と交渉内容】

1 講師の担当コマ数減少への対応

【回答】今回の減コマへの対応は5月以降の新しい取り組みで補填できるよう確保したい。
Eラーニング・短期など。後期で増コマ、授業復帰を望みたい。

【現状】 Eラーニングは時給1800円で2コマ程度、午前・午後などで講師募集
夏季短期プログラム 2コース(各4週間・午前のみ3時間)講師募集

2 メンターの待遇改善

【回答】年8回午前出勤分24コマの手当支給。メンターは非常勤。業務に応じ、支払う原則。

【現状】非組合員の中級メンター(2クラス)にも同等の手当を支給されることになる。

3 専任講師の待遇条件

【学園側回答】組合側の認識と要求(専任は有期雇用契約ではないと双方合意のはず)に基づき、2006年度の契約内容にもどした。

しかし、その後、文書で示された案は、新たに変更した内容が一部あり、次回の団交で論議と確認予定。

DATA BANK NO1

これから、シリーズで日本語教育・留学生・外国人に関連するデータをご紹介します。
 まずは、昨年度の外国人学生に日本語を教える日本国内の教育機関（大学留学生別科、専門学校、就学校）の学校数と特徴をまとめてみました。今年度については、データが未発表ですが、今後収集します。
 なお、日本国内の減少傾向に反し、海外、特に中国、東南アジアでの学校開設や公教育内での日本語科目の採用が顕著です。海外についても、いずれご紹介する予定です。

前年度より減少。昨年10月の入学者数の減少（前年度比）が全国的に見られます。
 都市部に集中。関東1都3県で全国の54%強をしめています。
 近畿76校中大阪が最多33校、和歌山、奈良の校数がきわめて少ないのが目立ちます。
 新入生の入学許可率は全国平均で40%台だったようですが、学校によっては0%も。

全国日本語学校 地域別 校数分布 2006年度

地区別		校数	地区別		校数		校数		校数
北海道 5	札幌市	5	東京都 153	千代田区	6	港区	11	八王子市	4
	東北 12	青森県		0	中央区	1	台東区	8	福生市
山形県		2		文京区	3	大田区	2	武蔵野市	2
岩手県		1		目黒区	3	杉並区	6	清瀬市	1
福島県		2		中野区	6	板橋区	2	三鷹市	1
宮城県		2		荒川区	4	墨田区	5	日野市	2
秋田県		0		江戸川区	6	足立区	2	葛飾区	4
中部・東海 40	新潟県	2		新宿区	37	江東区	5	渋谷区	10
	岐阜県	4		世田谷区	1	豊島区	12	北区	5
	富山県	3		関東 87	茨城県	5	栃木県	8	山梨県
	静岡県	8	千葉県		23	神奈川県	16	長野県	6
	石川県	2	埼玉県		23	群馬県	3		
	愛知県	19	中国・ 四国 19	岡山県	5	山口県	4	香川県	1
	福井県	1		広島県	6	愛媛県	1	徳島県	2
三重県	1	九州・ 沖縄 50	福岡県	29	大分県	3	佐賀県	3	
近畿 76	京都府		15	宮崎県	3	長崎県	2	鹿児島県	2
	大阪府		33	熊本県	4	沖縄県	6		
	兵庫県	24	全国総数 442 校						
	奈良県	2							
	和歌山県	2							